

釜石キッズラグビー国際交流プログラム “ KAMAISHI KIDS TRY ” 開催概要（2018～2021 年度）



一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会は、地域創生事業として
“ラグビーのまち釜石”において『釜石キッズラグビー国際交流プログラム
“ KAMAISHI KIDS TRY ”』を企画運営しています。

小学生を中心とした国内外の人々との交流の場をスポーツを介して創り、子どもたちの成長やまちの活性化の一助にしたいと考えています。

＊子供たちの成長：異文化交流、防災学習等

＊まちの活性化：小中学校と連携したイベント実施、つながり人口の増大、復興と継承の営み等
地域に根ざした持続的な活動とすることで、釜石市の鵜住居地区及びその周辺エリアがスポーツのまちとして発展する礎を築き、連携や効果波及の分野や範囲をだんだんと拡大させていくことで、釜石市及び三陸沿岸域や岩手県の地方創生の原動力になることを目指します。

【プログラムの内容】

国内外の子どもが参加するタグラグビー大会を中心に、国際交流を図るコンテンツを組合せたプログラムを、毎年夏～秋頃に釜石市で定期的に開催。

- ・子どもたちのタグラグビー大会（スポーツを介した国際交流活動）
 - － タグラグビーを通じて“国際的な視野を持ち、多様性を認める”能力を培う場を提供する。
 - － 大人も含めた多くの人々に、スポーツのすばらしさ、楽しさを伝える。
- ・交流イベント（複数国の交流・異文化理解、宿泊共同生活、住民他との多世代共同活動など）
- ・学習イベント（沿岸域の自然・文化に関わるワークショップ、鉄のまち関連の視察、防災学習など）

活動の主な場所は、釜石市鵜住居エリア（釜石鵜住居復興スタジアム、根浜シーサイド、釜石市民体育館、鵜住居地区生活応援センターなど）。インターネットを利用したオンライン交流も実施。

企画推進はプロボノによる運営スタッフチームを毎年組成し、運営費は企業協賛金・助成金・プログラム参加料（傷害保険加入料、宿泊・移動・食事代等の一部負担）などで充当。

【運営】 ※2022 年 3 月時点

- ・主催：一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会（略称 KSE）
- ・運営：KAMAISHI KIDS TRY 2021 運営チーム
KSE、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校、株式会社かまいし DMC、
釜石市・鵜住居地区の地域組織、協賛企業
- ・後援：釜石市、岩手県、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会、玄奘大学(台湾)
- ・協賛：クラシエホールディングス株式会社、
東洋証券株式会社、ストックウェザー株式会社、
特定非営利活動法人スクラム釜石、株式会社ファイナンシャルブレインシステムズ、
共栄船渠株式会社、株式会社十和観光、タマテクノシステム株式会社
- ・協力：釜石シーウェイブスジュニアラグビースクール、一般社団法人根浜 MIND、宝来館
- ・認定：スポーツ・フォー・トゥモロー

【開催実績】

国内外の子どもが参加するラグビー大会を中心に、自然文化体験/被災学習コンテンツを組合せた国際交流プログラムを、毎年夏～秋頃に釜石市にて開催。

○2018 年度 ; 第 1 回

- ・台湾及びオーストラリアから釜石に集い、三陸自然文化体験、被災学習、ラグビー交流を実施。釜石市/内閣官房東京オリ・パラ推進本部の“復興「ありがとう」ホストタウン”事業と連携。
- ・開催日程 : 9 月 14 日(金)～9 月 16 日(日) ※釜石からの参加は土日のみ。
- ・参加者 : 小学校高学年 45 人。参加国/地域は、釜石、台湾、オーストラリア。
- ・主要イベント : 被災体験学習、鶴住居小学校交流会、三陸自然体験(沢登り) 大槌町視察、知育菓子教室、ラグビー大会 など

○2019 年度 ; 第 2 回

- ・ラグビーの縁から参加地域を増やし、釜石の諸団体との連携も強め企画開催。プログラムの一環として「釜石・鶴住居のまちづくりワークショップ」を 7/7(日)に実施。
- ・開催日程 : 8 月 16 日(金)～8 月 18 日(日) ※釜石からの参加は土日のみ。
- ・参加者 : 小学校高学年 32 人。国/地域は、釜石、熊本、台湾、フィジー(日本在住)。
- ・主要イベント : 被災体験学習(いのちの道プログラム)、自然体験、交流イベント(花火・サッカー交流)、知育菓子教室、ラグビー大会 など

○2020 年度 ; 開催見送り

- ・コロナ禍を踏まえ、釜石に集っての交流プログラムの開催は中止。

○2021 年度 ; 第 3 回 (オンライン国際交流のみ)

- ・ラグビーワールドカップ 2019 の釜石市のレガシー(伝承遺産)の活用を考え、東日本大震災から 10 年が経過したまちづくりに想いを込めて企画準備するも、20 年度から続くコロナ禍の下、子どもたちの参加形態を変えて開催。
- ・開催日程 : 8 月 22 日(日) 10 : 00～12 : 30
- ・参加者 : 小学校高学年 31 人。参加国/地域は、釜石、台湾、広島。
- ・主要イベント : オンライン国際交流 (異文化理解、知育菓子教室)
※SNS による子どもたちの事前交流(企画運営 : 流経大学生スタッフ)を実施。

【参考】2022 年度の開催予定

- ・8 月下旬頃に、通常開催 (釜石に各地から子どもたちが集まり、自然文化体験やラグビー大会により交流を図る) を準備中。釜石、広島、熊本、台湾などからの参加を見込む。

【資料 1】プログラムの説明

■本活動の展開方向／プラットフォーム形成について

本プログラムは、「釜石/鶴住居×子ども×スポーツ(ラグビー)×国際交流」の場や仕組みの運営を中核に据えるものですが、徐々にその活動範囲を広げていく、または他主体との連携・協力によって対象テーマを増やしていくとしています。このプログラムを核とした“地域活性化のプラットフォーム(活動基盤)”を形成し、地方創生に寄与したいと考えています。

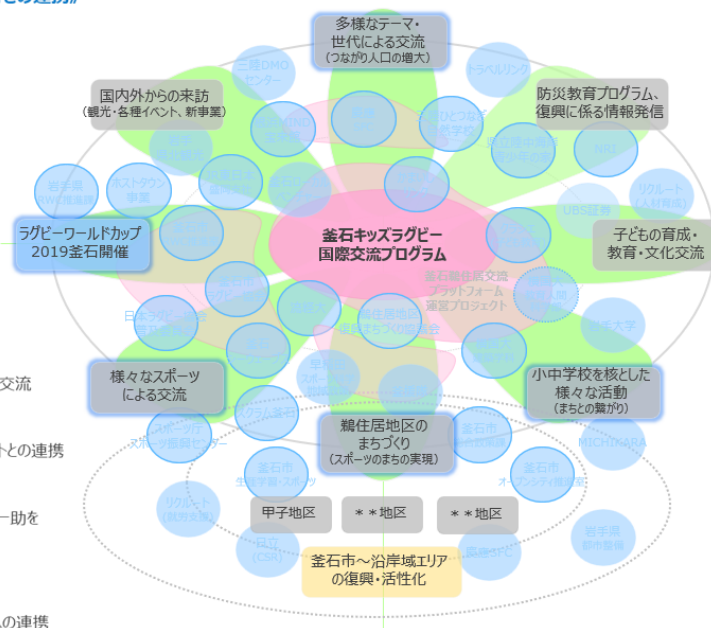
本プログラムを核とした地域活性化プラットフォームの形成（関連主体・活動との連携モデル案）

《地域活性化、まちづくりの分野/テーマの拡大、多分野との連携》

- 様々なスポーツによる交流
キッズ・ラグビー ⇒ 他のスポーツ、年代層への拡大
・ 大人の野球大会など
- 鶴住居地区のまちづくり（スポーツのまちの実現）
子どもラグビー ⇒ 地区のスポーツ振興
⇒ 他地区のまちづくりとの連携・組合せ
・ 釜石市全体の振興に寄与
- 小中学校を核とした様々な活動
鶴住居の小学生高学年による活動 ⇒ 復興のシンボルである「小中学校群」を核としたまちづくり活動へ
・ まちとの繋がりをつくり、太くする
- 子どもの育成・教育・文化交流
異文化体験 ⇒ 他のプログラム・イベントとの連携・交流
- 防災教育プログラム、復興に係る情報発信
防災学習の機会 ⇒ 震災復興事業/活動との連携
- 多様なテーマ・世代による交流活動
子どもたちの国内外のまちとの交流 ⇒ 他の世代、テーマの交流
・ 高校生による交流、つながり人口の拡大など
- 国内外からの来訪
大会参加者の来訪 ⇒ 観光・レジャー関連の活動/イベントとの連携
・ 釜石市または沿岸域の振興施策への寄与
- RWC2019を契機とした立上げ推進
意義(RWCを触媒とする機運醸成)・素晴らしさを伝える一助を
⇒ 定常開催を通じたRWCレガシーの持続活用

《エリアの拡大》

- 釜石～沿岸域エリアの復興・活性化
鶴住居地区 ⇒ 釜石市他地区、沿岸域等の広域エリアへの連携



■プログラムのロゴマーク、メッセージについて



《うのスタに掲示する横断幕》



《参加者に配布する T シャツ》

“ラグビーのまち釜石”の鶴住居地区で、子どもを中心とした国内外の人々との交流の場をスポーツを介して創り、子どもたちの成長(異文化交流、防災学習等)やまちの活性化(小中学校を舞台としたイベント実施、つながり人口の増大、復興と継承の営み等)の一助にしたいと考えています。

子どもたちは本プログラムを通じ、友だちの言葉に耳を傾け言葉をつなぐ、愛をこめてパスをしボールをつなぐ、同じゴールを目指す、ひとつの答えを導き出す、といったいろいろな体験をします。

その時に経験して欲しいことは、「自分で考え」、「自分で走り」、「自分で答えを決める」ことであり、そしてその先に小さくとも「突然道が開ける感覚を感じる」ということです。

これからたくさんの困難に向かうとき、今回の経験が、子どもたちにより多くの選択肢を与え、たくさんの仲間が世界中にいて支えられ、自ら考え、決めること、を恐れることなく、どんなことにもTRYして欲しい。

そんな願いを込めています。

【資料 2】 第 1 回～第 3 回の開催内容

■ 2018 年度_第 1 回

- ・9/14(金)～9/16(日) 釜石、台湾、オーストラリアの小学 4～6 年生 45 名
- ・釜石鵜住居復興スタジアム、鵜住居公民館、宝来館、県立陸中海岸青少年の家
- ・被災体験学習・鵜住居小学校交流会、三陸自然体験(沢登り)・大槌町視察・タグラグビー予選・山田まつり、知育菓子教室・タグラグビー大会(順位決定戦)
- ※“復興「ありがとう」ホストタウン”(釜石市・オーストラリア)の活動と連携。

《復興「ありがとう」ホストタウンの活動》 ※釜石市資料

日豪相互訪問による交流促進
1 岩手県釜石市 - 日豪小学生の交流とオリンピック関連機関等の訪問 -

- 釜石キッズラグビー国際交流プログラム(2018年9月14日～17日)に、オーストラリアの子供達を招き、釜石小学生の国際交流意識の向上を図った。
- 元オーストラリア代表のスコット・ファーディー選手を釜石に招いた際の、市民、子供達との交流を収録したプロモーションビデオを活用しながら、オーストラリアラグビー関係者に対して、復興支援の感謝を伝えるとともに、釜石市のPRと東京2020大会時の当市への招致、交流をオーストラリアを訪ね呼びかけた。(2018年11月4日～11日)

釜石キッズラグビー国際交流プログラム
集合写真

国際理解教室の様子

太鼓の体験

ラグビー協会との協議

オリンピック委員会訪問

本件の問い合わせ先
釜石市 生涯学習文化スポーツ課 0193-22-8835

タムテ市長、市議会訪問

《釜石市内に掲示したポスター》

2018 年
9月15日&16日

釜石市鵜住居復興スタジアム、復興文化センター、タグラグビー予選、山田まつり、知育菓子教室、タグラグビー大会(順位決定戦)

釜石市鵜住居復興地域にて
タグラグビー予選、山田まつり、知育菓子教室、タグラグビー大会(順位決定戦)

子どもスポーツ国際交流協会
スポーツを通じて子ども達の国際交流意識を高め、復興支援の意識を高める。また、釜石市のPRと東京2020大会時の当市への招致、交流をオーストラリアを訪ね呼びかける。

お申し込みはWEBにて
お申し込みページは <http://kksa.org/>

2018年8月20日(月)

会場
3,000名収容の復興スタジアム、復興文化センター、タグラグビー予選、山田まつり、知育菓子教室、タグラグビー大会(順位決定戦)

主催
釜石市、釜石市鵜住居復興地域、釜石市立陸中海岸青少年の家、釜石市立宝来館、釜石市立山田まつり、釜石市立知育菓子教室、釜石市立タグラグビー大会(順位決定戦)

協賛
Kracie、NRI、野村総合研究所

■ 2019 年度_第 2 回

- ・8/16(金)～8/18(日) 釜石、熊本市、台湾、フィジー(日本在住)の小学 4～6 年生 32 名
- ・釜石鵜住居復興スタジアム、鵜住居公民館、宝来館、県立陸中海岸青少年の家
- ・被災体験学習(いのちの道プログラム)・自然体験、交流イベント・タグラグビー予選・花火・サッカー交流、知育菓子教室・タグラグビー大会(チーム練習・順位決定戦)
- ※公益財団法人さんりく基金の「地域コミュニティ再生・活性化支援事業」に採択され助成を受ける。
- ※プログラムの一環として「釜石・鵜住居のまちづくりワークショップ」を 7/7(日)に実施。
- (鵜住居地区生活応援センターとの共催)

《開催案内・募集のポスター》

《まちづくりワークショップの開催》

《主催》 新住居公民館・鵜住居地区生活応援センター
一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会
(KAMAISHI KIDS TRY 2019 運営チーム)

釜石・鵜住居の未来のために
なんとかしたい みんなで
ざっばらんに 語り合う一日

まちづくり ワークショップ

スタジアムのある
KAMAISHI-UNOSUMAI

「日常の生活で困っていること」
「もったいなく感じるもの、大切にしたいもの」
「なにかが気になること、不安に感じていること」

釜石・鵜住居で
「なんとなんとなく面白くない」
「なんとなんとなく不安」

日時 7月7日(日) 9:00～12:30
場所 鵜住居公民館 多目的室
対象 小学生 以上の 30 名 (先着順・無料)

参加費 無料
お申し込みは、お電話またはお申し込み用紙にて、お申し込みください。

《問合せ・申込み先》
新住居公民館
電話 0193-28-2470
子どもスポーツ国際交流協会
E-mail info@kksa.org

このワークショップは、「みんなの意見」を聞き取り、子供たちの成長と、地域の未来を共に考える、KAMAISHI KIDS TRY 2019 の一環として、復興支援の意識を高める。また、釜石市のPRと東京2020大会時の当市への招致、交流をオーストラリアを訪ね呼びかける。



《報道資料》

- 岩手日報 : 9/16 朝刊、社会面
<https://www.iwate-np.co.jp/article/2018/9/16/23171>
- いわてめんこいテレビ : 9/15(土)
<http://www.fnn-news.com/localtime/iwate/category/detail.html?id=FNNL00066617&cat=sports>
- テレビ岩手 : 9/16(日)
<http://www.tvi.jp/nnn/news88515036.html>
- NHK「おはよう日本」 : 9/22(土)
朝 7 時台の 3 分程度の特集企画 (RWC まで 1 年と迫った釜石市の盛り上がり伝える内容)

2019 年
8月17日&18日

釜石市鵜住居復興スタジアム、復興文化センター、タグラグビー予選、山田まつり、知育菓子教室、タグラグビー大会(順位決定戦)

釜石市鵜住居復興地域にて
タグラグビー予選、山田まつり、知育菓子教室、タグラグビー大会(順位決定戦)

子どもスポーツ国際交流協会
スポーツを通じて子ども達の国際交流意識を高め、復興支援の意識を高める。また、釜石市のPRと東京2020大会時の当市への招致、交流をオーストラリアを訪ね呼びかける。

お申し込みはWEBにて
お申し込みページは <http://kksa.org/>

2019年8月20日(月)

会場
3,000名収容の復興スタジアム、復興文化センター、タグラグビー予選、山田まつり、知育菓子教室、タグラグビー大会(順位決定戦)

主催
釜石市、釜石市鵜住居復興地域、釜石市立陸中海岸青少年の家、釜石市立宝来館、釜石市立山田まつり、釜石市立知育菓子教室、釜石市立タグラグビー大会(順位決定戦)

協賛
Kracie、NRI、BBS、W、東洋証券

《2018 年度の記録》

1 日目：釜石入り (台湾、オーストラリア)



2 日目：被災体験学習、鶴住居小学校交流会



3 日目：開会式、三陸自然体験(沢登り)、大槌町視察、タグラグビー大会/予選、山田まつり (※釜石の子もたちが合流)



4 日目：知育菓子教室、タグラグビー大会/順位決定戦、閉会式



5 日目：帰郷 (台湾、オーストラリア)



<参加者の感想>

- ・友達がたくさんできて楽しかった。
- ・子どもも大人も、みんなタグラグビーを楽しめてよかった。

<メディア発信>

岩手日報 9/16(日) 朝刊 掲載 <https://www.iwate-np.co.jp/article/2018/9/16/23171>
NHK「おはよう日本」9/22(土) 放送 ～釜石ラグビーワールドカップ特別企画～

<KAMAISHI KIDS TRY プロジェクトムービー>

http://www.kracie.co.jp/news/10152164_3894.html

《2019 年度の記録》

8/15 (木) 各地グループが釜石入り

(熊本・関東/在日フィジー、
台湾は前日に県内入り)



8/16 (金) いのちの道プログラム (根浜海岸)、いのちをつなぐ未来館、交流活動、BBQ



8/17 (土) 交流活動、午後はスタジアムへ (※釜石の子どもたちが台流)



8/18 (日) 知育菓子教室、タグラグビー大会/決勝トーナメント



8/19 (月) 釜石を発つ



＜メディア発信＞ 「被災地メディアツアー」(東京都オリパラ準備局)の参加メディアによる取材など
在京海外メディア 17 社、岩手県内 9 社。 市長・KSE 代表・子どもたちへのインタビュー、試合の撮影。

■2021 年度_第3回

- * コロナ禍環境をふまえ、当初開催プランを変更して、初めての試みとなる「オンライン国際交流」を実施。
 - ・2021 年 8 月 22 日(日) 10:00~12:30(30 分延長)。31 人(釜石-7、台湾-20、広島-4)が参加。インターネット(オンラインミーティング用ソフトウェアを使用)で 3 地域(釜石、台湾、広島)を結び交流。釜石鶴住居スタジアムのリアルタイムの様子を釜石スタッフから発信。
 - ・①相互の異文化の理解(3 地域の紹介・クイズ)、②知育菓子の共創による交流を実施。
 - ・開催前に SNS 上で交流レベルをアップさせる情報発信(各地域の説明など)を実施。台湾では子どもたちがプレゼントを用意(キャンディーを手作り)。
 - 開催後も参加した子どもたちの間で交流が行われた(広島から台湾への手紙郵送など)。
- * プログラムのレベルアップを狙った SNS 活用を 21 年度から新たに実施。
 - ・流通経済大の学生スタッフが参加した SNS 活用チームにより、5 月頃から企画準備をし、7 月からInstagram 及び Facebook において定期的に発信。
 - ・KKT プログラムのプロモーション(参加者募集や連携主体の拡大に繋げる)や交流活動の成果を高めることを狙った。

《2021 年度の記録》

日本台湾交流協会公式 Facebook 掲載記事

【KAMAISHI KIDS TRY 2021 日台線上国際交流】

日本與台灣的小學生於 2021 年 8 月 22 日進行了視訊交流活動。日方安排了來自釜石市線上 7 名，廣島的會場 4 名，計 11 名學童，台灣則安排延平國小會場 14 名，中山國小的會場 4 名，線上 2 名計 20 名學童參加。此活動源自 2018 年由日本兒童運動國際交流協會開始實行，參加的學童們同聚在釜石市，透過防災學習及帶式撥球大會等，藉此加深國際交流。去年因新冠肺炎的影響而取消，今年亦因疫情尚未趨緩而臨時決定僅以線上的交流活動舉行。台灣的學童們將預先做好的糖果，以及自我介紹的卡片等一同郵寄至日本，另一方面則收到來自日本所寄來的紀念 T 恤及楓葉形狀的小饅頭等。最後相約好「明年在日本相見哦！」的約定，圓滿的結束了這次交流活動。

